

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>パーフェクト・ライバル</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.470</b>	△RG <b>0.043</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：パーフェクト・ライバル**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  インチ

番

**比較対照ボール：ライバル**

フレアーの幅  インチ

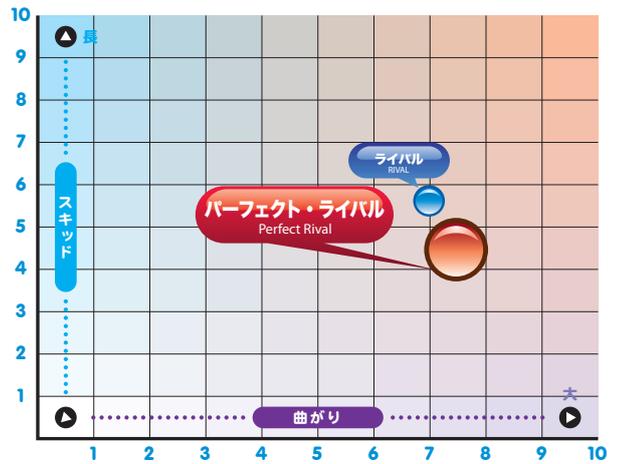
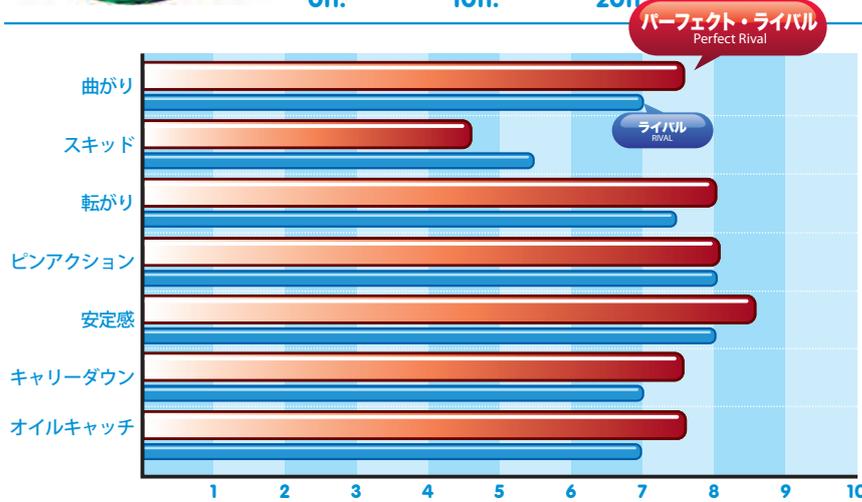
表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



**ボールの評価**

初代RIVALはコロムビアブランドの基準となる性能で発売され、NO RIVAL、ARCH RIVALと異なるリアクションを求め変化してきました。今回のこのPERFECT RIVALも例外ではなく、初代RIVALを基準とし、よりオイルに強くパーフェクトな軌道を描きピンヒットする性能に仕上がっています。

初代RIVALの良さは曲がり過ぎず曲がらなさ過ぎず、ミディアムコンディションを中心に対応幅が広い性能でありました。派手なリアクション特性ではなかったものの、一度使用した方がまたRIVALを購入し直す人も多く見受けられました。その点NO RIVAL、ARCH RIVALは曲がり幅を大きく、尚且つバックエンドのリアクションイメージを強めた為、使えるコンディションに悩まれた人も多かった事でしょう。

このPERFECT RIVALは初代RIVALのリアクション特性をそのまま受け継ぎ、手前のオイルが厚い時にも安定したスキッド・転がり感を確保できるようパワートルクをやや手前にし、曲がり始めをやや早めた事によるライン取りのしやすさと初代ライバルのイメージのままでよりオイルを求め投球できるボールに仕上がりました。

暴れるくらいバックエンドでの激しいリアクションのボールも時には必要であるし、そのリアクションが邪魔になる時もあるでしょう。初代RIVALが多くのニーズを得たのは、ボールの性能の激しさよりも安定した転がり・自分自身でコントロールする曲がりだったと思われるのです。

派手なリアクションのボールレパートリーの中にこのボールをラインナップに加え、さらにアジャストできる幅を広げてください。

**特記事項**

**コロムビア社最新のカatalogボール。**  
**初代RIVALのまがりそのままにオイルキャッチを強化。重厚なピンアクションも絶品です。**